２０２３年８月２７日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「夢を見る」
聖書：創世記４１：１～３６

今朝は「夢を解き明かす」ヨセフの物語から。ヨセフの夢は、過去のことではなく将来を予知する夢で特殊である。聖書を見ると、その他にも夢を見る物語がある。例えば、クリスマスの出来事の中で、夫ヨセフがマリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに離縁しようと考えていると、天使が夢に現われて「ダビデの子ヨセフよ、恐れずマリアを妻として迎えないさい」（マタイ 1:20）とのお告げを受けるという夢を見る。また同じく、三人の博士が幼子イエスにお会いした後、夢で「ヘロデ王のところへ帰るな」（マタイ 2:12）と告げられたので別の道を通って行った、というような箇所もある。いずれも予知として神が夢を通して、導いたと言うことである。

ヨセフもそういう夢を見る者であった。ただヨセフは、相手の夢をも解き明かすという賜物があった。その賜物をどう生かすかという事が如何に大事なことであるのかという事もうかがい知る物語でもある（37 章と 41 章の比較において）。

「夢」繋がりで触れたい。ヨエル書 3 章 1 節の言葉に「その後、わたしは、すべての人にわが霊を注ぐ。／あなたたちの息子や娘は預言し／老人は夢を見、若者は幻を見る。」素晴らしい聖書の言葉であるが、ここは「息子や娘は預言し」「若者は幻を見る」では終わっていないところに神の愛を見る。「息子や娘、若者」の間に「老人」が入っている。それも「老人は夢を見る」という。ここではもちろん寝て見る「夢」ではない。ヨエル書 3 章 1 節の初めに「その後」とあるがこの言葉の背景には自然災害による食糧難、戦争による悲劇がその時代にあって、民の多くが苦難の中にあった。そのような時代の中で人々が夢も希望も見出せないが、しかし預言者は、神の言葉として語るのである。

私たちは既に神の霊が注がれた者であり、神を信じる者。今の時代も、自然災害が常にあり、戦争が後を絶たない状況にあるが、それでも私たちは、主の平和の夢を見、主の平和の幻（ビジョン）を掲げ、神の言葉を発信する預言者としてありたい。主の平和を夢見つつ、私たちに出来る働きを担っていこう。聖書のしるす「夢」は未来に向かって語られている。私たち、老いも若きも「夢」を見よう。（神谷）